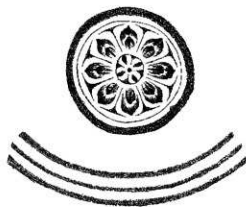


仙台市文化財調査報告書第296集

宮城県仙台市

郡山遺跡 26

郡山遺跡・仙台平野の遺跡群
平成17年度発掘調査概報



2006. 3

仙台市教育委員会

序 文

昭和55年の国庫補助事業による確認調査の開始以来25年間にわたって調査を継続してきましたが、その間に官衙の状況が次第に明らかになってきました。Ⅱ期官衙は多賀城創建以前の陸奥国府であると考えられ、その重要性が広く認識されるようになっていきます。

本年度は第5次5ヶ年計画終了後の補足調査として小規模な調査を実施しております。方四町Ⅱ期官衙の東側で実施した第166次調査では、官衙の東側では初めて外溝が発見されました。このことと、あすと長町に関わる区画整理事業に伴った調査によって同じ外溝の北西コーナーが確認されたことから、外溝が官衙の四方を囲んでいたことが明らかとなりました。方四町Ⅱ期官衙が材木列と大溝によって区画され、その外側に外溝が巡る構造であったことが明確となりました。このようなあり方は平城京が造られる前の都であった「藤原京」の中心部である藤原宮に類似しています。Ⅱ期官衙のうち方四町Ⅱ期官衙は当時の宮である藤原宮と造り方の上で密接な関係があったと考えられるようになりました。

本書はこの郡山遺跡範囲確認調査の他に、個人住宅建設に対応した調査及び仙台平野の遺跡の中で重要な陸奥国分尼寺跡、陸奥国分寺跡などの調査（「仙台平野の遺跡群」対応）について発掘調査成果の概要をまとめたものです。

郡山遺跡については、特に重要な遺跡の中核部について、部分的ではありますが、国史跡指定の準備を進めています。国史跡として指定されれば、歴史公園として街づくりも大きく前進すると考えておりますので、今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年3月

仙台市教育委員会
教育長 奥山 恵美子

例

1. 本書は国庫補助事業による郡山遺跡および仙台平野の遺跡群に係わる平成17年度範囲確認調査の概報である。
なお、報文中第165次調査については調査日程の関係で平成16年度に実施し、年度概報に詳細報告を掲載できなかった内容である。
2. 本概報は調査速報を目的とし、作成に当たっては次のとおり分担した。編集は平岡亮輔が行った。
第1章 郡山遺跡
I・II・III・IV・IX — 平岡亮輔
V・VI・VII・VIII — 今野秀治
第2章 陸奥国分尼寺跡ほか
I・II・III — 平岡亮輔
IV — 上藤哲司
第3章 総括 — 平岡亮輔
3. 本調査に係わる出土遺物、実測図、写真などの遺物は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 郡山遺跡の平面図に示した座標系は、任意に設定した原点 ($X=0$ 、 $Y=0$) を通る磁北線 ($6^{\circ} 44' 7'' W$) を基準にしている。
陸奥国分尼寺跡の平面図に示した座標系は、国家座標(平面直角座標系 X) である。
2. 文中および図中の方位は真北を基準としている。
3. 遺構の略称は次のとおりで、郡山遺跡の登録番号は全体の通し N_0 、その他は各調査回数における通し N_1 である。
SA: 柱列などの扉跡 SB: 建物跡 SD: 溝跡
SE: 井戸跡 SI: 竪穴住居跡 SK: 土坑
SX: その他の遺構 P: ビット、小柱穴
4. 遺物の略号は次のとおりで、郡山遺跡の登録番号は全体の通し N_0 、その他は各調査回数における通し N_1 である。
A: 縄文土器 B: 弥生土器 C: 土師器(非ロクロ調整) D: 土師器(ロクロ調整)
E: 須恵器 F: 丸瓦・軒丸瓦 G: 平瓦・軒平瓦 H: その他の瓦
Ia: 土師質土器 Ib: 瓦質土器 Ic: 陶器 J: 磁器
K: 石製品 L: 木製品 Na: 鉄製品 Nb: 非鉄金属製品
P: 土製品
5. 土色については「新版標準土色帳」(小山・竹原1997)を使用した。
6. 遺物実測図の網点は黒色処理を示している。
7. 表中の () が付いた数字は図上復元した推定値である。

目 次

第1章 はじめに	
Ⅰ. 郡山遺跡の調査体制	1
Ⅱ. 郡山遺跡・仙台平野の遺跡群の調査計画と実績	2
1. 調査計画	2
2. 調査実績	2
第2章 郡山遺跡	
Ⅰ. 第165次発掘調査	4
1. 調査経過	4
2. 調査方法と基本層序	4
3. 遺構と遺物	5
4. まとめ	8
Ⅱ. 第166次発掘調査	11
1. 調査経過	11
2. 調査方法と基本層序	12
3. 遺構と遺物	12
4. まとめ	19
Ⅲ. 第168次発掘調査	29
1. 調査経過	29
2. 調査方法と基本層序	29
3. 遺構と遺物	30
4. まとめ	30
Ⅳ. 第169次発掘調査	33
Ⅴ. 第170次発掘調査	34
1. 調査経過	34
2. 調査方法と基本層序	35
3. 遺構と遺物	36
4. まとめ	36
Ⅵ. 第171次発掘調査	38
1. 調査経過	38
2. 調査方法と基本層序	38
3. 遺構と遺物	41
4. まとめ	42
第3章 陸奥国分尼寺跡ほか	
Ⅰ. 陸奥国分尼寺跡第11次調査	48
1. 調査経過	48
2. 調査方法と基本層序	50
3. 遺構と遺物	51
4. まとめ	57
Ⅱ. 陸奥国分尼寺跡南西部範囲確認調査	66
Ⅲ. 陸奥国分寺跡南大門跡・薬師堂仁王門の調査	67
1. 調査経過	67
2. 調査方法と基本層序	67
3. 遺構と遺物	67
4. まとめ	73
Ⅳ. 南小泉遺跡	89
第4章 総括	90

挿図目次

第1図 郡山遺跡全体図	3	第6図 第166次調査区位置図	11
第2図 第165次調査区位置図	4	第7図 第11次・166次調査区全体図	12
第3図 第165次調査区全体図	5	第8図 SD76・78平面・断面図	13
第4図 SI2178平面・断面図、SK2179断面図	6	第9図 SX2178平面・断面図	14
第5図 SI2178出土遺物	7	第10図 SX2181出土遺物(1)	16

第11図	SX2181出土遺物(2)……………	17
第12図	SX2181出土遺物(3)……………	18
第13図	SD2120平面・断面図……………	20
第14図	SD2120出土遺物……………	21
第15図	第168次調査区位置図……………	29
第16図	第168次調査区平面・断面図……………	31
第17図	第169次調査区位置図……………	33
第18図	第170次調査区位置図……………	34
第19図	第170次調査区設定図……………	34
第20図	第170次調査区平面・断面図……………	35
第21図	第171次調査区位置図……………	38
第22図	調査区断面図……………	39
第23図	第171次調査区平面・断面図……………	40
第24図	第152次・171次調査区全体図……………	42
第25図	陸奥国分寺跡・国分尼寺跡位置図……………	48
第26図	陸奥国分尼寺跡全体図……………	49
第27図	陸奥国分尼寺跡第11次調査 平面・断面図……………	50
第28図	SB1～6、SA1平面図……………	52
第29図	SK1～8、SX1断面図……………	54
第30図	第11次調査出土遺物(1)……………	56
第31図	第11次調査出土遺物(2)……………	57
第32図	第11次調査出土遺物(3)……………	58
第33図	第11次調査出土遺物(4)……………	59
第34図	寺城西側地区出土遺物……………	66
第35図	陸奥国分寺跡全体図(1/2000)……………	68
第36図	仁王門・南大門跡位置図(1/500)……………	69
第37図	調査区平面図……………	70
第38図	仁王門礎石エレベーション図……………	71
第39図	調査区断面図……………	72
第40図	南大門跡出土遺物(1)……………	74
第41図	南大門跡出土遺物(2)……………	75
第42図	仁王門跡出土遺物(1)……………	76
第43図	仁王門跡出土遺物(2)……………	77
第44図	南小泉遺跡調査地点位置図……………	89
第45図	外郭の計画地点……………	91
第46図	外郭材木列から外溝までの構造模式図……………	93

挿表目次

表1	17年度郡山遺跡ほか発掘調査計画……………	2
表2	17年度発掘調査実績……………	2
表3	第165次調査遺物集計表……………	8
表4	第166次調査遺物集計表……………	19
表5	第171次調査遺物集計表……………	43
表6	陸奥国分尼寺跡第11次調査遺物集計表……………	57

表7	仁王門礎石一覽……………	71
表8	陸奥国分寺跡調査遺物集計表……………	76
表9	外郭材木列の座標値(m)……………	91
表10	外郭大溝の座標値(m)……………	91
表11	外溝の座標値(m)……………	91
表12	外郭材木列の間隔(m)……………	92
表13	外郭大溝の間隔(m)……………	92
表14	外溝の間隔(m)……………	92

写真図版目次

写真図版1	第165次調査区全景、聚穴住居跡……………	9
写真図版2	SI2178出土遺物……………	10
写真図版3	第166次調査区西部全景、溝跡……………	22
写真図版4	第166次調査区東部全景、溝跡他……………	23
写真図版5	溝跡……………	24
写真図版6	SD2120溝跡出土遺物……………	25
写真図版7	SX2181出土遺物(1)……………	26
写真図版8	SX2181出土遺物(2)……………	27
写真図版9	SX2181出土遺物(3)……………	28
写真図版10	第168次調査区全景、断面……………	32
写真図版11	第170次調査区全景、断面……………	37
写真図版12	材木列跡(1)……………	44
写真図版13	材木列跡(2)……………	45
写真図版14	材木列跡(3)……………	46
写真図版15	一本柱列跡、溝跡他……………	47
写真図版16	陸奥国分尼寺跡 第11次調査区全景 土坑……………	60
写真図版17	拡張区全景……………	61
写真図版18	第11次調査出土遺物(1)……………	62
写真図版19	第11次調査出土遺物(2)……………	63
写真図版20	第11次調査出土遺物(3)……………	64
写真図版21	第11次調査出土遺物(4)……………	65
写真図版22	寺城西側地区出土遺物……………	66
写真図版23	仁王門全景、礎石全景……………	78
写真図版24	仁王門礎石(1)……………	79
写真図版25	仁王門礎石(2)……………	80
写真図版26	南大門跡調査区全景、根石……………	81
写真図版27	南大門跡調査区……………	82
写真図版28	南大門跡調査区断面(1)……………	83
写真図版29	南大門跡調査区断面(2)……………	84
写真図版30	出土遺物(1)……………	85
写真図版31	出土遺物(2)……………	86
写真図版32	出土遺物(3)……………	87
写真図版33	出土遺物(4)……………	88
写真図版34	南小泉遺跡調査区……………	89

第1章 はじめに

I. 郡山遺跡の調査体制

郡山遺跡の第5次5ヶ年計画は昨年度で終了し、平成17年度は範囲確認調査の補足調査第1年目にあたる。調査体制は下記のとおりである。

調査主体	仙台市教育委員会			
調査担当	文化財課	課長	阿部	功
		整備活用係長	古岡	恭平
		主査	長谷川	隆二
		主任	長島	榮一
		主任	平間	亮輔
		主事	安田	仁

実際の発掘調査にあたっての担当職員は以下のとおりである。

第166次調査	整備活用係	主任	平間亮輔
第168次調査	調査係	文化財教諭	今野秀治
第169～171次調査	整備活用係	主任	平間亮輔、調査係 文化財教諭 今野秀治

発掘調査、整理作業を適正に実施するため調査指導委員会を設置し、指導・助言を受けた。

委員長	工藤 雅樹 (東北歴史博物館館長 考古学)
副委員長	今泉 隆雄 (東北大学大学院文学研究科教授 古代史)
	岡田 茂弘 (前東北歴史博物館館長 考古学)
	進藤 秋輝 (宮城県考古学会会長 考古学)
	桑原 滋郎 (前宮城県考古学会会長 考古学)
	須藤 隆 (東北大学文学部教授 考古学)
	宮本長二郎 (東北芸術工科大学芸術学部教授 建築学)

発掘調査にあたり次の方々からご協力をいただいた。

報告書作成	須田 勉 (国士館大学教授)、千賀 久 (檀原考古学研究所附属博物館)、 小栗 明彦 (檀原考古学研究所)、松村 恵司、神野 恵、渡辺 文彦 (奈良文化財研究所)
地権者	菅原平二郎、齋藤 捷術、中村 朋之、渡辺 武弘、齋藤 長明

Ⅱ. 郡山遺跡・仙台平野の遺跡群の調査計画と実績

1. 調査計画

郡山遺跡の第5次5ヶ年計画は平成16年度で終了したが、それ以降の調査計画については平成16年3月に開催された郡山遺跡調査指導委員会において審議がなされた。その結果、今後は範囲確認調査から遺跡整備に伴う調査へ移行すべく次の5ヶ年計画は策定せず、当面は現段階で持ち越しとなった課題について補足調査を実施していくことが了承された。

補足調査1年目の今年度は、方四町Ⅱ期官衙の東側にもこれまで確認されている南側と西側同様に「外溝」が存在するかどうかを明らかにすることを目標とした。

これらは国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」で実施するものであるが、この他に仙台城の主要遺構の遺存状況確認調査、個人住宅建設など小規模開発に伴う発掘調査も含まれており、これらは「仙台平野の遺跡群」として包括されるものである。なお、今年度は現陸奥国分尼寺の本堂改築工事の機会を捉え、陸奥国分尼寺跡推定寺城南側における範囲確認調査を実施することとし、「仙台平野の遺跡群」の一部として調査を計画した。

仙台城跡を除いた郡山遺跡ほかの発掘調査総経費は22,744,000円、国庫補助金額11,372,000円の予算で計画したが、これを郡山遺跡発掘調査に6,265,000円、陸奥国分尼寺跡発掘調査に7,812,000円、その他仙台平野の遺跡群に8,667,000円として配分し、これによって以下のような発掘調査実施計画を立案した。

調査次数	調査地区	調査予定面積	調査予定期間	調査原因
郡山遺跡第165次	方四町Ⅱ期官衙外郭東辺	200㎡	5月～7月	範囲確認
陸奥国分尼寺跡第11次	推定寺城南側	500㎡	9月～11月	範囲確認

表1 17年度郡山遺跡ほか発掘調査計画

2. 調査実績

上記の発掘調査とは別に、個人住宅建設に伴って郡山遺跡で4箇所、南小泉遺跡で2箇所の調査を実施したほか、陸奥国分尼寺跡推定寺城西側において範囲確認調査を実施した。なお、本書には詳細を掲載していないが、伊達政宗が晩年を過ごした城とされる若林城について宮城県、文化庁の指導を受けて範囲確認調査を実施している。また、現陸奥国分寺の仁王門の建替えが急遽必要となり、この機会に仁王門と重複して位置する陸奥国分寺南大門跡の範囲確認調査を実施したが、これらはすべて「仙台平野の遺跡群」として対応した。なお、これらの調査結果はすべて本書に含めることとしたため、今年度の「仙台平野の遺跡群」としての単独の報告書は発行しないこととした。

調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山遺跡第165次	方四町Ⅱ期官衙東辺部	219㎡	5月10日～7月15日	範囲確認	郡山遺跡発掘調査
陸奥国分尼寺跡	推定寺城南側	22㎡	6月20日	範囲確認	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡第168次	Ⅰ期官衙中継部南東側	90㎡	6月21日～7月11日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡第169次	方四町Ⅱ期官衙東辺部	19㎡	7月25日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡第170次	方四町Ⅱ期官衙東外側	27㎡	8月1日～3日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
陸奥国分尼寺跡第11次	推定寺城南側	215㎡	8月25日～9月26日	範囲確認	仙台平野の遺跡群
陸奥国分寺跡	仁王門跡・南大門跡	18㎡	11月15日～12月2日	範囲確認	仙台平野の遺跡群
郡山遺跡第171次	Ⅰ期官衙中継部南東側	112㎡	1月10日～1月25日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
南小泉遺跡	西部	21㎡	2月13日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
南小泉遺跡	西部	14㎡	3月6～7日	個人住宅建築	仙台平野の遺跡群
若林城跡	城内・南東部	410㎡	3月13日～	範囲確認	仙台平野の遺跡群

表2 17年度発掘調査実績

第2章 郡山遺跡

I. 第165次発掘調査

1. 調査経過

第165次調査は個人住宅建築工事に伴う調査で、平成17年3月に実施している。調査に至る経緯および調査日程は平成16年度概報に述べたとおりで、日程の関係で平成16年度概報に調査結果を掲載できなかったものである。調査区は方四町Ⅱ期官衙中枢部の東部にあたり、第162次調査区第1トレンチと一部で重複している。

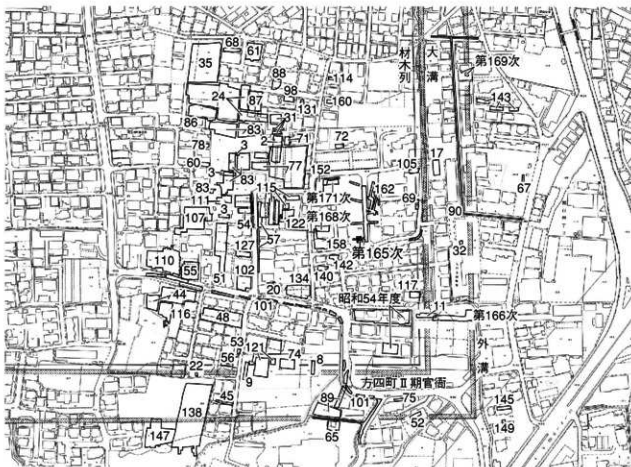
2. 調査方法と基本層序

(1) 調査方法

調査区は東西5.5m×南北6.5mに設定したが、南東側に一部拡張している。調査面積は約38㎡である。

重機で盛土とⅠ層を除去し、Ⅲ層上面で精査を行った。下層の調査は調査区の制約と周辺における調査成果から実施していない。

遺構実測のための基準杭は調査区の方に合わせて設定し、後にこの座標値を測量する方法をとった。平面図は基準杭を基に簡易測り方を組んで1/20で作成した。断面図も1/20で作成している。写真は35mmモノクロフィルムとリバーサルフィルムを一眼レフカメラで撮影し、補助的にデジタルカメラでも撮影した。



第2図 第165次調査区位置図

(2) 基本層序

基本層序は概ね第162次調査区(註1)と共通と考えられるが、調査区が狭いために対応関係を明確にすることはできなかった。I～IV層まで確認した。

I層 10YR4/2 灰黄褐色シルト。黒褐色粘土ブロックを少量含む。盛土以前の畑の耕作土である。

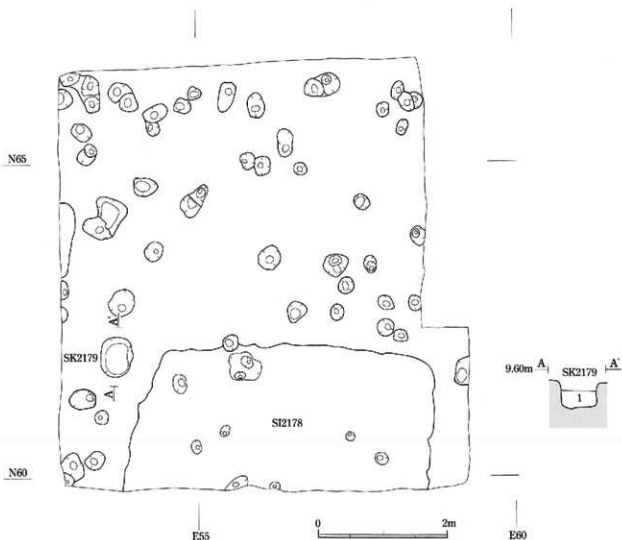
II層 10YR3/2 黒褐色粘土。西部で部分的に確認された。

III層 10YR3/2 黒褐色粘土。褐色粘土ブロックを多量に含む。

IV層 10YR4/4 褐色粘土。遺構確認面で、第162次調査区のIII層に対応すると考えられる。他の調査区でも概ねこの褐色あるいは黄褐色の粘土層上面で遺構を確認している。

3. 遺構と遺物

今回の調査では竪穴住居跡1棟、土坑1基、ピット62基を確認した。竪穴住居跡の確認面はIV層上面であるが、調査区壁面の観察によると本来はIII層上面から掘り込まれていることが判明した。

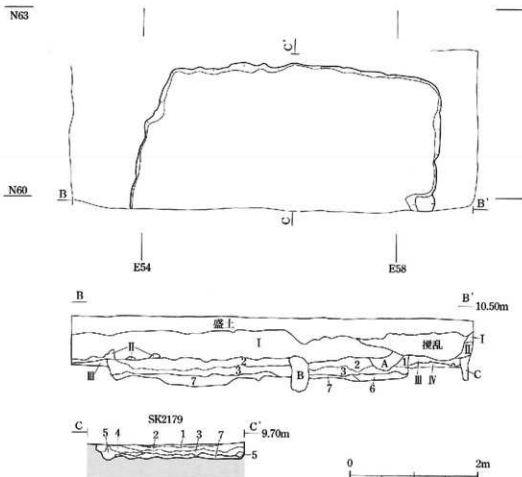


第3図 第165次調査区全体図

SI2178竪穴住居跡 調査区南壁際に位置する。確認したのは北半部で、南半部は調査区外となっている。規模は東西長約4.8mで、主軸方向は明確ではないが北壁の方向からするとE-4°-N前後と推定される。住居跡の東壁、調査区の南壁際にはカマドの北側のソデと考えられる粘土の集積が認められた。住居跡の確認面から床面までの深さは20~25cmで、床面は住居の掘り方を5~15cm埋め戻してつくられている。

柱穴などのピットやその他床面上の施設は確認できなかった。堆積土は自然堆積層である。

遺物はカマドの前面を中心として、堆積土下層~床面直上にかけて土師器約700点、須恵器60点、瓦1点、金属製品5点、鉄滓約130点(633g)が出土した。図化できたのは土師器7点、須恵器2点、銅製品1点、平瓦1点である。土師器C-996坏(第5図1)は丸底風平底で体部外面に僅かに段を有し、口縁部は直線的に開いている。



SI2178

層位	色 調	性 質	遺 物 入 物 ・ そ の 他
1	10YR 3/2 黒褐色	シルト	
2	10YR 3/3 暗褐色	シルト質粘土	黒褐色シルトブロック少量、灰褐色シルト質粘土小ブロック少量、木炭粉微塵
3	10YR 3/1 黒褐色	粘土	灰褐色質シルト質粘土小ブロック少量、木炭粉微塵
4	10YR 3/1 黒褐色	粘土	灰褐色質シルト質粘土小ブロック少量
5	10YR 3/1 黒褐色 10YR 2/4 灰褐色	粘土ブロック 粘土ブロック	混合
6	10YR 3/2 黒褐色	粘土	褐色粘土ブロック少量、(餅り方埋土)
7	10YR 3/3 灰褐色	粘土	灰褐色粘土ブロック少量、(餅り方埋土)

ピット

A	10YR 3/2 黒褐色	シルト	
B	10YR 2/2 黒褐色	シルト	灰褐色質シルト少量
C	10YR 4/2 灰褐色	粘土質シルト	灰褐色質シルト少量

SK2179

層位	色 調	性 質	遺 物 入 物 ・ そ の 他
1	10YR 3/3 黒褐色	粘土	灰褐色質粘土ブロック少量

第4図 SI2178平面・断面図、SK2179断面図

